

青年会議所(JC)は男女関係なく活動しているんだ

みんなで描こう！ミライの MIHARA



【自動運転編】

乗り物や移動体の操縦を人の手によらず、機械が自立的に行うシステムである自動運転。まず自動運転のレベルをご紹介します。

レベル0:ドライバーが全ての動作を行う
 レベル1:ステアリング操作か加減速のいずれかをサポートする
 レベル2:ステアリング操作と加減速の両方が連携して運転をサポートする
 レベル3:特定の場所ですべての操作が自動化、緊急時はドライバーが操作
 レベル4:特定の場所ですべての操作が完全に自動化される
 レベル5:あらゆる状況においても操作が自動化。ハンドルもアクセルも不要

2019年12月1日の「道路交通法」と「道路運送車両法」の改正により、自動運転レベル3機器の保安基準と、システムの運転時の事故の所在が明確になりました。これにより2020年は、いくつかの自動車メーカーから自動運転レベル3搭載車の市販化が進むと予測されています。レベル3になるとドライバーは運転から解放されますが、緊急時や自動運転システムが作動困難になった場合、ドライバーがクルマに代わって対応を求められるので、必ず運転席に着座している必要があるとの事です。ここでレベル5に移行した際のメリットを考えてみたいと思います。まず、交通事故の大減少。ドライバーの役割を人からシステムへ移行することで故意や不注意といった原因が排除され、交通事故の大減少に期待が持たれています。例として昨年、三原市では人身事故件数が約140件あり、2日から3日に1回のペースで起こっています。続いて渋滞の緩和。三原市でもよく渋滞しているところを見かけますが、コンピューターが速度制御を正確に行ったり、リアルタイムで混雑情報などを収集し、効率的な行程管理を行ったりすることで渋滞緩和が期待されています。続いて、運転からの解放。電車やタクシーに乗っている状態と変わりないため、食事や勉強、仕事をしたりしながら移動することができるため、車内で過ごす時間有効に活用することが出来るといわれています。続いて、公共交通への応用。無人での自動運転は、定められた道を定められた時間に定期運行する公共交通機関との相性が良いとされています。コスト減による運賃の値下げも期待でき、赤字運営が前提となっている地方の路線バスなどで特に強みを發揮し、地方の公共交通サービス存続に貢献する観点からも注目が集まっています。因みに国土交通省は、住民の高齢化が進む郊外のニュータウンなどでバスやタクシーなど公共交通機関に自動運転システムを導入する実証実験にすでに乗り出しているとの事です。続いて、カーシェア・ライドシェアの利便性アップ。自動運転技術の進展により、カーシェアやライドシェアの利便性も高まり、スマートフォン1つで車を呼び出して目的地へといった使い方も想定されます。ハンドルなどの操作機器が不要になることで車内の空間を広くすることで座席ごとに仕切りを付け、プライバシーを守りながらのライドシェアが可能になるのではないか。最後に上限速度制限の緩和。自動運転により道路状況や天候などさまざまな環境に応じた正確な運転が可能となれば、高規格道路などを中心に速度制限が緩和されることが想定されます。これにより、遠隔地への移動時間が大幅に短縮される可能性があります。

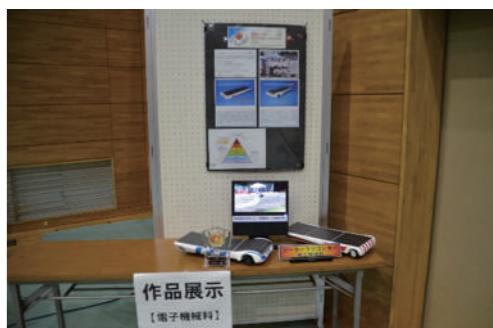
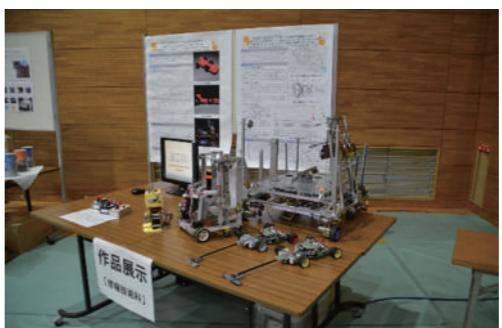
ここまでメリットについて説明しましたが、技術的課題や交通事故時の責任の所在、誤作動・ハッキングの可能性など課題も山積しています。しかしながら自動運転に向け、一歩ずつ社会は前進しています。

では、自動運転で三原のまちがどう変わるのか。バス停から離れたところに住む高齢者の生活サポートや通学・通勤はライドシェアで渋滞緩和。また、広島空港や三原駅から観光客が自動運転車に乗車。国籍・性別や年齢、季節により複数の観光プランを多言語で提案。三原の史跡や古墳を巡ったり、春は桜の名所、秋は仏通寺の紅葉狩りを楽しんだ後はタコなどの三原のグルメを堪能する。そうすることで様々な三原の魅力に触れていただけると思います。

ミライのMIHARA！アイデア大募集！！



青年会議所(JC)は「明るい社会の実現」に向けて活動しています



第I部 「インターンシップ」 電子機械科

株式会社古川製作所へインターンシップを行い、同社の技術部・製造部の見学・体験を行いました。製造のリアルな現場や高度な専門技術、またそこで働く人に触れる中で5つの学びがありました。
 ①報告・連絡・相談の大切さ
 ②信頼性の大切さ
 ③発想の転換の大切さ
 ④仕事をする事の意義
 ⑤今学んでいることの大切さ
 「社会に出たときに今学んでいることが活きると気づき、今の学びがより大切に感じ勉強を頑張ろうと思いました。」と言われていたのが印象的でした。

第III部 「課題研究」 現代ビジネス科

三原市をより多くの人に広く知っていただくためには、計画的に新しいことにチャレンジすることで三原市の魅力upを図ることを目的に活動を行いました。その中で認知度が高いと言えない三原産の「米粉」に着目。行政や地元企業、スーパー・マーケットとチームを結成し、会議を重ねながら商品開発やコスト管理などを行い商品化に至りました。その中で多くの学びがありました。

- ①何度もプレゼンや試食を繰り返しながら新商品を作ることの大切さ
- ②コストを意識しながら消費者のニーズに応えることへの大変さ
- ③商品の開発から販売に至るまでのプロセスをプロの方々に教えていただいたこと
- ④商品が出来上がった時の達成感

三原市の魅力UPに向け、マーケティングを行い、地域資源をバージョンアップしていく素晴らしい取り組みであると思いました。この他に第II部では「産業総合実習」の成果発表や各学科の生徒による作品の展示があり、各学科の取り組みやものづくりを通して行政や地元企業、教育機関や地域との繋がりを強く感じるとともに広島県立総合技術高等学校の学校教育目標である「心を鍛え、技を磨き、地域社会に貢献する」を体感させていただきました。



「やっぱもっさチャンネル2月号」

三原青年会議所の広報番組、やっぱもっさチャンネル。2月号のテーマは「三原の祭り事情」。人口減少や少子高齢化の中、浮かび上がる課題。クラウドファンディングを使った新たな取り組み。三原の祭り事情に三原青年会議所がダイブ！番組をご覧になりたい方は当青年会議所ホームページにて公開しています。是非、ご覧下さい。